

TEAM TARO



SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000
11



2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦 SUPERBIKE RACE in SUGO

宮城県・スポーツランド SUGO (1周=3.6211km)
クラス：JSB1000 マシン：BMW M1000RR タイヤ：BRIDGESTONE
2022年6月4日(土) 天候：晴れ コース：ドライ
レース1 予選：8番手 (タイム：1分27秒596) 決勝：8位
2022年6月5日(日) 天候：晴れ/曇り コース：ドライ
レース2 予選：7番手 (タイム：1分27秒788) 決勝：9位
観客動員数：8,000人 (2日間合計)



TARO 両レースでシングルフィニッシュを果たす

全日本ロードレース選手権はシリーズ第4戦を宮城県・スポーツランドSUGOで迎えた。関口の参戦する国内最高峰クラスJSB1000は、今回でシーズン前半戦を終える。ここまで3戦6レースをこなし、着実にマシンセットを進めてきた。成績も右肩上がりとなっており、今回のSUGOラウンドでは、さらに進化させていくことができていた。



金曜日の走行は、あいにくの雨となったが、前戦のオートポリスラウンドからのセットで走り始め、テスト項目をこなしていく。基本ドライセットのままだったが、いいものであれば雨でも、うまく機能してくれる。決してコンディションはよくなかったが、慎重に走り初日の走行を終えていた。



土曜日は青空が広がりとドライコンディションで公式予選が行われた。いつものように、まずはユーズドタイヤでコースインし、マシンの状態を確認。変更した部分のフィリングが、いま一つだったためビットインし、セッティングを変更する。そしてラスト15分で前後ニュータイヤを履き、タイムアタックに入っていく。ちょうど速いライダーが前にいたこともあり、いい目標になっていた。ストレートで離されるものの、それ以外は

離されずについていくことができ自己ベストを更新し8番手につけた。セカンドタイムでは、7番手となり、両レースとも3列目に並ぶことになっていた。



25周で争われたレース1。スタートは、いつも通り慎重にこなし、オープニングラップのバックストレートで秋吉選手にかわされ11番手。3周目に秋吉選手をかわし前のライダーを追っていく。5周目に前で転倒があり9番手、さらに1台がマシントラブルで離脱し8番手に浮上。そのまま8位でチェッカーフラッグを受けている。

日曜日天気はよくなり、レース2に向けて終盤でさらによくなるようにセットを変更。朝のウォームアップ走行で確認するが、ポジティブな部分とネガな部分があり思うような手応えをつかめずにいた。



レース2は、ST1000クラスで発生したアクシデントのため周回数が5周減り20周で争われた。スタート直後から岩田選手と一騎打ちのバトルを繰り広げる。ほぼST仕様様のM1000RRは、ブレーキもスタンダード。バトルでブレーキング勝負をするにはリスクがありすぎるため、最終ラップのワンチャンスにかけることを決めていた。



勝負ポイントは、110Rからシケインの進入だった。岩田選手がアウト側に出るか、イン側を抑えるかを観察。インを取ったため、アウトからかぶせるラインを取ってシケインに入っていく。並んでいくが、抜けきることができずにゴール。悔しい9位となったが、2レースともシングルフィニッシュを果たす結果となった。



■関口太郎コメント

「シーズン開幕前から今回のSUGOラウンドまでにBMW M1000RRを戦える状態まで持っていくことを目標にしています。開幕戦のときに比べれば確実にマシンセットは進んでいて、よくなってきています。まだまだ課題が残っているので、鈴鹿8耐に向けてのテスト走行もあるので、さらにBMW M1000RRのポテンシャルを引き出し出していけるようにしていきます。引き続き応援よろしくお願いたします」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com